

## 平成 28 年度 女性と市長との懇談会（1 回目）

懇談テーマ：わたしの住み続けたいまちはこんなまち

平成 28 年 11 月 24 日(木)15:00~17:00

福岡総合事務所 2 階 世代交流室

出席者 女性 19 人 10 地区

市長・政策推進部長・定住推進部長・

教育委員会事務局長・女性活躍推進対策官

### 市長あいさつ

合併をして 12 年が過ぎようとしており、いろいろなことがありました。合併をした理由は、14、15 年程前から国の財政が厳しくなったため、全国の自治体への支援が従来どおりに行えなくなり、平成 16 から 17 年にかけて平成の大合併が国の指導で推進されました。現在全国で 813 ある市のうち 427 の市が平成の大合併により誕生しました。解決しなければならない問題はどの自治体でも抱えています。中津川市は昨年、今後 12 年間の総合計画を作りました。その計画を実践するために、12 年を前期・中期、後期の 3 つに分け、より具体的な計画としてまち・ひと・しごと総合戦略を作り上げて今年度で 2 年目に入っています。厳しさもありますが計画に沿ってほぼ進めていることを報告します。

近年、戦後日本が経験したことのない人口減少が問題となっています。近年の日本は、保険制度や年金制度など人口増加を前提にさまざまな仕組みが作られており、生活にかかわる制度が大きく崩れてしまうことが大変問題になってきました。日本が培ってきた制度を守りながら、ゆるやかに人口減少社会に対応していこうと進めているのですが、若い人が都市に集まることで、人口減少にはずみをかけています。中津川市の出生率は 1.71 ですが東京は 1.13 と低く、先々の心配になっています。

そんな中で中津川市の総合計画や国のまち・ひと・しごと総合戦略に沿って進めています。この戦略の大きなしくみの第 1 点は、今まで積み上げてきた中津川市の生活環境を受け入れつつ、人口減少に歯止めをかける政策を打てるかです。特に生産性が高い若い皆さまに住んでいただくことに重点をおいたまちの魅力を作っていきけるか。働く場所をはじめ、出産、子育て、教育、医療、また生活の中で気分転換になる分野などさまざまな部分がバランスよく整って初めて胸を張って中津川市へ定住しませんかという話ができるのです。中津川市はそんなまちづくりを進めています。それには何をすればいいかということが計画の中にはしっかりと盛り込まれています。

今中津川市の人口が約 7 万 9 千ですが、合併したときは約 8 万 5 千でした。10 数年間で約 6 千人の人口減少になったわけです。市内の企業は頑張ってくださいたいしていますが、働き手がいなくて困っています。その結果、企業が人の集まる場所に出て行ってしまふことを心配しています。中津川市に工業団地ができましたが、リーマンショックのときに有力な企業が撤退しました。そんなことが経済の流れでまた発生するかもしれない。そうしたことも考えて若い方に安定的に生活していただくことが重要です。高齢化も避けて通ることができません。福祉関係業界で働く方だけではなく、介護の運転手を

はじめ仕事として運転される方も足りません。車業界では急速に自動停止や自動運転装置の技術が発達していますが、タクシーや福祉、学校などで運転を仕事とされる方の確保が厳しく自動運転に持っていきたいからです。これも人口減少を見据えた政府の施策となっています。人口が与えてくれる活力が中津川市の産業構造を支える大きなウェイトを占めています。これを支えていく施策が中心になりそれぞれの分野の計画がなされています。

## 懇談内容（要約）

### ・〇〇さん

埼玉県出身で、結婚前は小学校の先生をしていました。私には2人の子どもがいて、中津川は暮らすのにすばらしいところと覚えることがたくさんあります。自然に恵まれ、地域の方もいろいろと子供に目をかけてくださいます。ですが、大学に進学するには中津川を離れるか、長い時間かけて名古屋まで通うか、それとも進学を諦めるかという話になるのではないかと感じます。他のお母さんとお話すると、男の子は進学させてあげたいけど、女の子は商業高校などに行って地域に残って欲しいという話を耳にします。私は奨学金を使いながらも大学に行ったことで仕事を得ることができたということもあり、高等教育は職業に就くときの武器になると感じています。大学進学負担は都市と地方で大きく違うと思います。以前、高山市にいたのですが、毎月多額の仕送りや教育費を継続的に何年も払い続けているといった話をたくさん聞き、子供が大学生になるころに中津川に住み続けられるか心配しています。例えば、市独自の奨学金制度があれば進学を考える子供がもう少し増え、奨学金をいただくことで、社会人になったときに中津川市に戻るモチベーションにもなるのかなと思います。よそのお話ですが、お嫁さんが奨学金を背負ったままで結婚することへの理解が田舎ほど厳しいとの声も聞きます。病院など、大学を出ないと就けない職業も多くあるので、人材育成の観点でも奨学金を給付して、帰ってきたら返済を緩和するなどすれば地域の子供を育てていくことにもつながると思います。子供が大人になったら、地域に残って納税してもらわないと困ると思うので、定住するためには今いる子供たちを流出させないという考えも大切だと思いました。

### 市長

中津川市にも中京学院大学がありますが学部が限られていますので、選択肢は限られてしまいます。奨学金制度は一生懸命取り組みをしています。医師の確保のためドクターになられる方には年間数百万円の奨学金制度があり、卒業後決まった年数中津川市で勤務していただければ全額返済免除となります。それを看護師さんにも適用しました。保育士さんにも同様の制度を作ることを検討しています。これを多くの分野に導入すべきという話も出てきています。財政との折り合いになりますので、全てのものに対して制度を作ることはできないのですが、国の政策も見逃さずに、若い方が一度中津川市を出ても地元就職する仕組みを考えているところです。それから、中津川市にどんな企業に来ていただくかが重要です。中津川市は今年3月春まで、県内2、3番の有効求人倍率でしたが、求人はあっても人が来ないのです。中津川市に住むためのいろいろな環境や子供さんが大学、高校卒業しても地元就職していただける環境整備をしているところです。

#### ・〇〇さん

学童の役員をしています。政府も女性が働ける環境と言っていますが、中津川の学童に対する支援は他の市に比べると引けをとっていると感じています。学童の運営費は支援してもらっていますが、中津川は国基準とはほど遠い基準になっていて、預けるのにお金の負担が多いので、国基準まで上げて欲しいと思います。

#### ・〇〇さん

蛭川は未だに学童ができていません。その理由は指導員が集まらないからです。3時から7時過ぎまでといった普通の仕事よりも遅い時間の勤務だと、子育てが落ち着いた人や、余裕のある人しか働けない。待遇が悪いなどと言われていて、国と一緒にやっているとは思いますが、まだできないのかと思っています。

また、働く親として預けたいのですが、補助金が少ないので先生を雇って運営していくための保育料が高額になってしまい、働く意味がなくなってしまうと思います。

#### 市長

中津川市が遅れている、と言われていたのですが、他の自治体も保育料を負担している金額を調べて対応しています。中津川市が高いとかいうことは調べていただければわかります。

#### ・〇〇さん

補助金が恵那市と比べて100万円以上低かったり、国基準からいったらかなり低いという話です。

#### 市長

学童保育の歴史はまだ浅く、自治体の取り組みに大きな差があります。中津川市は、今18か所で学童保育をやっています。学童保育開設の経緯も、地元で作ったところ、ライオンズクラブの支援をいただいたり、保護者会でお金を貯めて開設したところや行政が作ったところなど、さまざまな経緯があります。形態もバラバラです。詳細は教育委員会事務局長から話します。蛭川は平成29年4月から学童保育が始まります。

#### 教育委員会事務局長

学童保育の運営費の補助金は現在国基準に至っていない金額しかお渡ししていない状況ですので、来年度からの予算を積み上げており、子育て政策室では国基準と同額になるような予算要求をしています。市全体の予算のことがありますので決まったわけではないですが、それが通れば、担当者の賃金が少しは良くなり、勤めやすくなると思います。

蛭川の学童保育は、総合事務所横の研修センターの建物を改修して開設する予定で、段取りは大体できています。ソフト面として運営方法、地元の協力などといったところを詰めているところで、平成29年春からのオープンを目指しています。

## ・〇〇さん

金銭的な子育て支援がしっかりしているまちに住みたいと思っています。今4歳と3歳の2人の子供がいて、中津川市の保育園は2人が重なって通っていれば、保育料が半額になります。3人目についてですが、恵那市では重ならなくても3人目は保育料無料です。3人目も欲しいけど、経済的に苦しいということがあるので、中津川市も重ならなくても3人目の保育料が無料になるのか知りたいです。

## ・〇〇さん

加子母のような過疎の地域に、家庭的な小規模保育施設が欲しいと思っています。加子母では未満児が4人しか預けられないので、加子母で働いているのに別の地区の保育園まで送っていつている人もいます。預けられないのでしかたなく退職し、貯金を切り崩して生活しているという話も聞きます。私のママ友で、預けられないことが理由で恵那市や岐阜市へ移住してしまったお母さんがいて悲しいと思っています。Iターンで来てくれた人は、いろいろなライフスタイルのなかで、預けられないというだけで出ていってしまう人がいるので、寄り添って応援するために必ず預けられるようにしないと人口が増えることには結びついていきません。ただ人口の増加を目指すのではなく子育ての質を上げることが大事です。美容院にもいけないくらいのストレスをかかえるのではなく、安定して楽しく暮らせる地域であれば、加子母のような市街地から遠いところでも住んで子育てしたいと思っている人がいると思う。そういうことをしようと思うとどうしても行政の力が必要なのですが、市の職員さんや保育士さんは手いっぱい、提案しても話が進まない状況です。今後、過疎地域の未満児保育について積極的に取り組んでいただきたいと思います。小規模保育施設を中津川市として増やしていきたいという想いはあると思いますが、過疎地域も増やして欲しい。

## ・〇〇さん

病児保育についても取り組みを進めていただきたいと思います。

私は核家族なので、フルタイムの仕事に復帰したくても、子供の病気のことを考えると踏み切れないです。市内だとファミリーサポートに登録できますが、子供が熱を出すと使えません。瑞浪は病児保育があるという話を聞いたので中津川市でも考えて頂きたいです。

## 教育委員会事務局長

今年度、未満児保育を希望される方が大変多いので、それを解消するために保育士の確保に取り組んでいます。全体的に保育士が少ないので、大変苦勞しているところです。来年度は、私立ですが苗木のぞみ保育園が未満児専用の園になります。また、こぼと保育園で未満児を引き受けていく、誠和幼稚園の小規模保育事業所を新設で作っていただくといったことがあり、市街地ではありますが、順調にいけば50人程度の枠があります。私立で預かる分が空いてくると、その分公立の園での未満児保育を市街地から旧恵北地域などにもまわせることになるのではないかと考えています。私立の充実が公立の充実につながるということで来年度の取り組みを考えています。また、保育士を増やすことが大事なので、臨時保育士の賃金を上げるといった政策を考えて予算要求をしているところです。

病児保育については、市民病院で作ってもらえないかと調整していますが、坂下病院の関係があり空いた場所ができるかどうかはわからず停滞しています。そのため、市内の入院施設を持っている診療所

や病院にも引き受けてもらえないか話をしていますが、なかなか空いた場所がなかったり、感染対策が十分できないということでまだ一度も良い返事を頂いていません。ですが、早急に何とかしたいという想いはありますので、いつとは言えませんが必ず何とかしたいと思っています。

## 市長

小規模保育については、国が進めている女性の方に働いていただくという「一億総活躍社会」で、民間の会社が無許可でもできる教室を作って欲しいという政策も出ています。これは国の補助金も対象になり、今日の新聞で瑞穂市か本巢の会社が保育所を作ってスタートしますという記事がありました。行政だけではスピード感が出ないのですが、実際に対応している企業もあり、それによって企業も人を集めることができるので、私達から企業の皆さんへの呼びかけを行なっていきたいと思っています。

病児保育はいろいろな考え方があります。瑞浪市は市営ではなく民間の東濃厚生病院で行なっているのですが、中津川市でも病児保育は充実しなければならないと思っています。ただし、いつ何が起こるかはわかりませんので、医者が近くにいることを重視しており、どこでもできるということは避けたいと思っています。

## ・〇〇さん

人口減少は、人が増えないと財源が確保できないと思いますし、住みやすいまちにするには、福祉や子育てなど全ての手当の充実が重要だと思います。今、高齢ドライバーの問題などがありますが、高齢夫婦で暮らしていて免許証を手放せない方もいます。免許を返すと1年はタクシーの割引があると聞いたけど、1年では足りないと思います。長く生きるので、タクシー乗り放題などとなれば定年したあとに、中津川に移住しようと思うのでは。人が増えれば消費も増え、財源も確保でき、まちの充実につながっていくと思います。

中津川市には多くの空き家や使われていない田んぼがあってもったいないと思うので、都会の子向けの田植え体験など形はなんであれ、有効利用出来たらと感じています。

また、落合は馬籠の通り道で多くの観光バスが通りますが、お土産売り場などのお金を落として貰う施設がありません。移住定住に併せて、市外県外から中津川市に足を運んで貰えるような、魅力あるまちになるといいなと思います。

## 市長

どこの自治体も扶助費といわれる福祉に関わる費用はずっと右肩上がりで、これからも増えていって各自治体の財政も厳しくなります。しかし、教育、子育てに関わる部分も大切にしなければならない。そのバランスを取りながら進めているところです。

先日公共交通関係の勉強会に行ってきましたが、これからの公共交通の課題は言われたとおりです。高齢者の事故が問題になっていますが、免許証を返したら病院も買い物も行けない。そうした中で病院や買い物への送迎などの援助に今国も取り組んでいます。地域で移動購買車を購入して、地域を回っていただくことに国が直接助成する制度も出ています。車の自動運転も最終的には自動的に目的地まで連れていってくれるという交通の在り方をこれから作っていききたい。そういう勉強会でした。地域の交通の在り方をどうやって確保するかを考えていかないといけません。市政懇談会でも、最近は特に交通手

段に関わる話が多くなってきました。地域毎で様々だった対応を続けて欲しいという形が暫く続いたので、こちらでも大変苦労してようやくまとめてきました。まだ完全な形にはなっていませんが、まずは中津川市のなかで同じように交通手段をしっかり提供できる状況を考えたうえで、精度を高めていくというステップが難しいところです。

#### ・〇〇さん

地元の介護予防のお手伝いをしていますが、80代でも外に出かけられる方は元気で覚えも良い方が多く、家にこもらず、外へ出ることが大切だなと感じています。

保育士さんが不足しているという話がありましたが、お年寄りが先々元気に生活してもらうために小さいお子さんと触れ合うことはとてもプラスになることなので、可能であればボランティアとして保育所で子どもをみることに力を貸して頂いてはどうかと思います。そうすれば、年寄りとしては子どもたちと接することで励みになるし、活性化にもなるのではと思います。

#### 市長

高齢者の方に保育園や幼稚園へ来ていただき、子供さんたちと触れ合う機会を持っていただくこともあります。加子母では年一回、小学校・中学校で地元の大先輩と関わることもしていますし、中津川市では地域の見守り隊が朝、夕に学区の安全を守る活動をしていただいております。家にこもるのではなく、外へ出る機会を作って頂き、こんなことをやればいいという激励のアドバイスも頂きたいと思っております。

#### ・〇〇さん

私は千葉県で看護師と保育園で働いていました。出産をしてから、待機児童の問題で保育園にも預けられず、働けないし生活も難しいということで実家に戻ってきました。私も旦那もキャリアを全部捨てて、就職活動から始めました。私も働きたかったのですが、未満児保育に2人を入れるとなると、保育費が高くなってしまいますので、今は働いていません。こちらはすごく環境が良く、東京や千葉の友達などからはうらやましがられる場所で子育てができています。知り合いに独身の看護師がたくさんいますが、中津川市に来るように言えないのは、医療職の待遇面や就職する場所がなかなか良いところがないことと、未満児の保育園に入れるのが難しいということがあります。人口を増やさないと、中津川が低迷していくと思いますが、女性にどんどん入って来てもらえば、出産も増えるし子供に対する取り組みも活性化するのではないかと思います。資格があっても働けない保育士、看護師は東京にもたくさんいるので、中津川市が先駆者となり、そのような方の待遇を良くしてお嫁として来た人がよかったと思える地域にしていけたら、医療職も保育士も増えるかなと思います。給料、待遇を良くしてアピールしたらいいのかなと思います。

#### 市長

人を呼び込みたいときに力を貸して頂けそうなお意見をいただきました。一億総活躍は例えば看護師といった資格があれば病院で働かなくても、自宅で高齢者の介護をするときも活躍できるので、報酬が得られるような形を作ろうということがスタート時に入っていました。しかし、多くの方を対象に進め

ているので、なかなか細部までは進んでいけないのが現状です。特に保育所の待遇については国会で議論されたところで、人口減少のもたらす課題が大きく広がる中で議論がされていますが、その影響がまだまだ出てきます。できれば全国に先駆けて対応をしていきたい。今日、皆さんから参考になるご意見いただいていますので、こちらから連絡させていただくこともあるかもしれません。よろしく願います。

## ・〇〇さん

富山から中津川に移住してきて4年目になりました。蛭川に来て良かったのは、杵振り祭りといった、昔から大事にされ土地のことを教えてくれるものや、それを繋げようとしてくれている人、そういう環境があるところです。娘や自分が生きていくためにもとてもいい環境だと思って住んでいます。

中津川市の総合計画の「かがやく人々やすらげる自然活気あふれる中津川」は魅力的な言葉だと思います。私の周りにも「かがやく人々」がいます。私は核家族で、地域の方が良くしてくれるおかげで生きています。そんな各地区にいるかがやく人々には昔からいろんな変化に対応していった知恵があるので、そんな生きる力を教えて欲しいと思っています。今あるものを見つめ直して、活かせるものを活かし、足りないところを外からとらえることが肝心だと思います。

いろいろな問題はあると思いますが、蛭川に住まわせてもらっている以上は、何かできることをやっていきたいと思っています。蛭川に移住される方のお手伝いをしたとき、蛭川には空き家が80数件あることがわかりました。そこで、蛭川で行政や地域の人と、移住したいと思っている人が空き家を活かして触れ合えるゲストハウスのようなふれあいの場を作りたいと思いました。そのような場を作る助成金がなく残念に思います。地元の方や行政の方と協力して移住者支援策を作っていきたいと思っていますので、そういった声を拾っていただける環境があれば良いなと思っています。

## 定住推進部長

家族が移住するのに大変苦労している状況のなか、蛭川には大勢の方に移住していただきありがとうございます。市としては体験型住宅の整備をしていこうと思っています。移住は一生に一回のことで、すぐ住むということにはならないので、少し地域の人に触れていただく。そういった場所は現在市内で2カ所あります。もし団体等で住宅を借りて体験型住宅を整備するのでしたら改修に100万円などという制度もありますので、そういうご希望がございましたら、定住推進課にお話ししてください。また、空き家バンク制度で空き家を紹介していますが、地域の方が一番情報を持っているので、情報をいただいてホームページに掲載するということにもご協力をお願いします。制度も見直して使い勝手のいいものにしたいので、またご意見ありましたら、知恵をお貸しいただければと思います。

## 市長

中津川市の持つ課題は、東西の広がりや南北の距離感から来る、同じ目線になれない部分というものがああります。併せて真ん中に木曾川があり、木曾川右岸の旧郡部は日本海の文化が中心で、左岸は中山道の東西の文化が中心です。市内に歌舞伎保存会が5つありますが、旧郡部では坂下、加子母、福岡、蛭川にあります。お金がないときに自分たちで楽しみたいと、見よう見まねで覚えて地元の人たち自ら演じる文化です。旧中津川市内の歌舞伎保存会は江戸や大阪からプロを呼んで、見て楽しむという文化

です。いまは、地歌舞伎と言っていますがいろいろな考え方があり、同じ中津川でもそれだけ違います。それぞれの地域1市7町村の違った文化を大切にしたい。また、長野県でしたが昔から中津川と親密だった山口地域も一緒になりました。私はあくまで新しい中津川市民だという思いは一緒だと思っています。だけど、それぞれの地域の文化は大切にしていく。結婚して中津川に来ていただいた皆さんには外から見た中津川の良い部分、嫌な部分というのが必ずあると思います。それを素直に受け入れて、直せることは直す、守ることはしっかり守る、それが私のスタンスです。

国が進めているコンパクトシティは山間部には住まず、人口を一カ所に集めて生活すれば、交通や学校や医療の問題も解決するというものです。それが一番進んでいるのが富山ですが、1カ所の市街地に皆集まってくださいというのは、そこが良くて住んでいる人の想いを無視してしまうことなので、やるつもりは全然ありません。しかし、国が援助できなくなり、頼れなくなった部分を12年間の計画のなかで自分たちの力でなんとかできるようにしなければならない。現実問題として高齢化の問題や医療・福祉に対する今の課題を解決しなければならないし、若い人たちに生まれ育ったところで住んでもらうための希望を持たせるしくみを作っていかなければならない。それは、中津川市全体で取り組まなければいけないことです。是非今日の皆さんで、1年後に私が言ったことがどうなっているか、検証していただきたいです。

## ・〇〇さん

中津川市は自然が豊かなところが良いと思っていますが、中津川は県下で一、二番のゴミの排出量と聞いています。有料化が検討されているようですが、ゴミの出し方も知らない人が多くいるように思います。有料化するにしてもゴミを減らしていくということが、一番大事だと思います。再利用できる資源も、安いから燃えるごみで出しているような方が少しでもいるのなら、市全体として多くの処理費用がかかっていることや、減らす方法を知ってもらう教育をすることが大事だと思います。

田瀬地区のある場所ではいつも地元の人が捨てたのではないと思われるコンビニの弁当が捨ててあり、地区の人がそのゴミを拾って片づけています。ゴミのマナーは子供の頃からの教育が重要だと思います。子ども達に1年に1回でもゴミを拾ってもらい、嫌な思いをすると、自分たちはこんなふうにゴミを捨てないと思うのではないのでしょうか。中津川をきれいにしたいと考える場を教育の中でやるのが大切だと思います。

## 市長

有料化は12月議会で議案が提出されます。合併前にはゴミ袋が高いところもありましたが、合併して一番安い金額に設定されたのを、適正な形にしていくためにゴミ袋料金の見直しをしました。大型ゴミは今無料でやっていますが、地元の名前を借りて市外から焼却場に持ち込むという話も聞きます。大型ごみは有料化にしないととんでもないゴミ捨て場になってしまう。来年4月に大型ゴミ、8月から家庭から出る可燃・不燃ゴミについてゴミ袋という形で対応させていただきます。ゴミ有料化を出すまでの経緯として、衣類を集めたり、段ボール・新聞紙・雑誌をゴミとは別に集積場を作って仕分けて出して頂くことを進めています。民間の回収業者にも回収ハウスの設置など、協力をお願いしました。大きなゴミ袋に生ごみを入れると置いておけないから、小さな袋にして工夫していただくなどの工夫をみなさんをお願いしたい。議会で賛成されるかわかりませんが、ゴミ対策は広報やホームページでの周知、各



地域の分別ステーションを作るなどして対応してきたが、そろそろ踏み切るときではないかなと議会に提出させていただいています。

ゴミ教育の件は、教育長も一緒に努力してくれています。また、生徒に議員になってもらって議論をする生徒会サミットを開催していますが、去年はゴミ問題がテーマでした。まちを汚さないためにどうすればいいかを中学生が一生懸命議論してくれました。参加してくれた人だけの話にするのではなく、学校へ持ち帰って議論してほしいとお願いしました。それが広がりになる。生徒自身も関心を持っています。

## ・〇〇さん

中央橋の掛け替えが完了して、大変便利です。ありがとうございます。

付知レディスサークルという団体をやっています。例年、会員数や助成金が減るなかで、会員の親睦を図ったり地域で役立つ女性として活動しています。防災の炊き出しや、防災活動のイベントを行っていますが、一般市民の参加が少なく、防災意識が低いように感じます。市には防災の体制作りをしていただいています、市民の防災意識を高める活動が必要ではないかと思います。

## 市長

先日、防災力の関係で環境省と総務省へ行きました。中津川市のみなさんは消防活動、地域の活動、防災訓練に多くの方に参加して頂き、市をあげて防災に取り組んでいただいています。過去には四ツ目川災害があり、南木曾町での2年前に起こった災害や御岳山の噴火などもあり、いつ災害が起きるとも限りません。市民の皆さんに防災意識を持っていただき、中津川市の防災力を高めることに取り組んでいきます。また、環境省、総務省にも力を借りながら防災の取り組みを進めていきます。

市内では、両サイドが崩れたときに孤立する可能性が高い付知川を心配しています。付知は道が街中一本流れているという状況なので、右岸、左岸の道路整備や最悪の場合は林道を活用して脱出したり、万が一孤立したときにはヘリコプターという防災計画をしています。

昨年、B&G財団が、炊き出しやプールの水をろ過する機材を持ち込んで付知で訓練したのは、そんな意味合いもあります。そのB&G財団が先日小学生の皆さんと付知で広葉樹を植えて、山の保水力を高めつつ、景観にも結び付けようということを付知地域でしています。これは民間の活動にB&G財団が応じたということですので、感謝を申し上げます。

## 市長あいさつ

市内ではアピタさんが来年閉店するという話もありますが、これは地主さんとユニーさんの問題であり、私どもがコメントすることはないのです。アピタさんはユニーの時から46年間も中津川で商売をしてきておりこの貢献は大きい。その話はしっかり地主さんに伝えましたが、結果的には地主さんは違う方を選ばれました。次にできることは、中津川市の中心地に人が活動できないものができてしまっただけでは困るので、商業施設として活用して欲しいという要望を伝えました。その要望はかなえられそうですが、ここから先をいろいろコメントすることは営業妨害になってしまう可能性もあるのでこういった形とさせていただきます。

衛生センターについては福岡の方にはご心配をおかけしましたが、本年度造成工事を開始し、平成3

1年に完成予定です。その間の工事は交通安全・騒音等の対策を考慮して対応させていただきます。

リニアについて皆さんが気になっているところだと思います。これから高齢化社会に向かって支出は増えます。収入はその時の経済の流れでどうなるかわかりません。そんな中で若い親御さん達がお互い仲良く、夢と希望を持って働こうという気持ちになっていただくしくみを作らないといけない。私はリニアでまちづくりができるとは思っていません。リニアをいかに生かすかが重要です。リニアインパクトという言葉もありますがこれは1つの起爆剤です。例えば道路一本つくるにしても、リニアがくるといことで国に要望した方が間違いなく早い。教育環境などさまざまなことを整えていくのにも、中津川市がインフラ整備しなければならないなかでリニアにより国の力を借りているのが現状です。そんな仕組みのなかで、将来的にしっかり歳入をまかなえるだけの基盤ができれば、若いひとたちに安心してバトンタッチができる、その重要な時期です。そうしたことに合わせて、今日みなさまから頂いた課題を解決して、将来に向かって夢の持てる形を作っていく。この2本立てで進めていますので、よろしくをお願いします。